令和7年度 第1回焼津市水道事業審議会 会議録

1. 日時：令和7年7月1日（火） 午前10時05分～午前11時25分

2. 場所：焼津市役所本庁舎1階 会議室1B

3. 出席者

(1) 委員：佐藤委員、北川委員、小林委員、齋藤委員、大塚委員、望月委員、小川委員、
田原委員、須方委員 9名

(2) 事務局：多々良部長、渋谷課長、鳥居課長、青島総務兼事業管理担当係長、
藤井建設担当主幹、山田配水場担当統括主幹、西村給水担当係長、
織原事業管理担当主任主査、柴田事業管理担当主事、天野

□開会

□委嘱状交付

市長より委嘱状交付

委嘱日：令和7年4月28日付け 任期2年

□市長挨拶

□委員、事務局の自己紹介

委員9名、事務局職員

□会長、副会長選出

会長：佐藤委員 副会長：北川委員

□諮問

- ・焼津市水道ビジョン・経営戦略2020の推進について
- ・経営基盤の強化について

□会長挨拶

□議事

- 1 水道事業審議会の概要
- 2 水道事業の概要
- 3 ビジョン・経営戦略の概要
- 4 水道料金の現状
- 5 審議会の公開について

□質疑

2 水道事業の概要に関する質疑応答

質問：A委員

人口減少で収益が減っていると説明があったが、トイレなどの節水機器が増え、節水型の生活になっている。そういった影響を加味しているのか。

回答：事務局

1人1日あたりの使用量が平成27年度は3720あったが、令和6年度は357.10と100ほど減少している。

生活用水における1人1日あたりの使用量は、平成27年度は2690で令和6年度は268.30と若干減っているが、ほぼ横ばいとなっており人口減少の影響が大きいと考えている。

水需要予測は、節水の影響も加味している。

質問：B委員

令和6年度に人工衛星による漏水調査を実施しているが、この結果を反映して、工事計画の変更などはあったか。

回答：事務局

人工衛星による調査で191か所の漏水の可能性エリアを特定した。令和6年度に、そのうちの100か所のエリアを実際に漏水しているのか、現地にて音聴棒などを使って調査を行った結果、41か所の漏水を発見した。

質問：B委員

(人工衛星による漏水調査の精度は)40%程度の確率ということか。

回答：事務局

100か所のうち、同じエリアで複数の漏水箇所を発見している場合もあり、エリアにおけるパーセントでは30%程度となっている。

内訳としては、道路に埋設された本管よりも、各家庭への給水管の漏水が多かった。

この結果を受け、漏水箇所の兆候を分析しながら、次の更新計画に活用していきたいと考えている。

質問：B委員

(人工衛星による漏水調査は)今後も継続的に行われるのか。

回答：事務局

今年度は、残りの91か所の漏水可能性エリアの現地調査を行う。

次年度以降は、人工衛星を含めて、AIによる管路の劣化診断など検討していきたい。

3 ビジョン・経営戦略の概要に関する質疑応答

質問：C委員

(水道ビジョンの)安全の観点に、鉛管の使用について記載がある。先ほど漏水調査の説明があったが、漏水箇所の中に鉛管はあるか。

回答：事務局

人工衛星に限らず、一般の方からの漏水報告も含め、少なからず鉛管からの漏水がある。

意見：C委員

本管を入れ替えるときに変えてしまえばいいが、個人の方に交換していただくのは難しいと思う。今後も努力をお願いしたい。

質問：B委員

資料 26 ページの水道ビジョンの見直し時の料金回収率と、資料 13 ページの令和 6 年度の料金回収率が異なるようだが、この差はどういった理由か。

回答：事務局

ビジョンの見直し時は、予算額を基に料金回収率を求めたが、資料 13 ページは決算見込み額を基にしている。供給単価は 111.42 円、給水原価は 104.33 円となっており、中間見直し時の差が出ている。

質問：B委員

若干の差はあるが、給水原価が上がっていく傾向は続く見通しでよいか。

回答：事務局

決算で給水原価は若干改善しているが、傾向としては委員のお見込みのとおり。

質問：D委員

(資料 26 ページのグラフを見ると) 令和 8 年度に料金改定を行っても、令和 11 年度にはもう一度見直しが必要と考えてよいか。

回答：事務局

近年の物価高騰などを考慮すると再検討が必要と考えている。

意見：D委員

物価が上がれば、固定費は変わらないので、見直しは必要になる。料金改定の妥当性を審議する中で、行政として効率化がどの程度行われているか資料を示して欲しい。

4 水道料金の現状に関する質疑応答

質問：E委員

水道の使用量が下がって、工事費や人件費が上がって、料金を上げなければならないと説明があった。水道料金の県内比較の資料で、焼津市は安い方に入っているが、これは現在の水道料金の資料になるのか。値上げをした場合は、どの程度の順位になるのか。

また、各市町村の改定率は何%程度であったか。

回答：事務局

口径 13 mm で 20 m³ を使用した場合の料金が、1,782 円で県内 (安い方から) 2 番目。県内の平均が 2,580 円。1 番安い伊豆の国市が 1,584 円、一番高い牧之原市が 3,685 円である。

水道ビジョン・経営戦略に示した 29.6% で料金改定を行った場合、焼津市の料金が 2,309 円程度となり、順位は (安い方から) 7 番目となる。

沼津市が令和 6 年 7 月と令和 7 年 1 月の 2 回に分けて、料金改定を行っており、トータルで 35.9% の改定率となっている。

その他には、島田市が令和 5 年 4 月に 8.1%、湖西市が令和 7 年 4 月に 10% の値上げを行っている。

審議会全般に関する質疑応答

意見：B委員

料金改定をしない場合、どの程度財政が不安定になってしまうのか、明確な資料の提示を求める。

回答：事務局

次回の審議会で報告する。

意見：B委員

口径別の有収水量と件数、給水収益がわかる資料の提示を求める。

回答：事務局

次回の審議会で報告する。

意見：C委員

(会長より) 傍聴人数を3名程度と提案があったが、議事の進行によって、会長の裁量の幅をもつていただきたい。

回答：会長

会議は原則、公開で傍聴人は3名とするが、状況に応じてこれらは変わる可能性があることとする。

閉会

今回は8月25日(月)午後2時より開催する。